

## ■令和5年度 葛飾ブランド 漫画家募集設定ストーリー

私は、20数年革小物の縫製の修行を経て、独立を果たした。

革製品の縫製は、ミシンや抜き機なども使用するが、そのほとんどを手作業でまかなっているため、非常に手のかかる仕事であり、その品質や仕上がりも職人の腕に左右される。

独立した当初から、幸い腕の良い職人達に恵まれ、国内での縫製の需要も多かったため、仕事に困ることはなかった。

しばらくすると、国内での人件費の高騰や大量消費・大量生産へとシフトし、縫製の仕事の多くが海外に奪われることとなった。

自社もそのあおりを受け、日本の縫製品質にこだわるいくつかの得意先を除いては、今まで請けていた仕事の半分以上を海外に奪われてしまった。

これにより、多くの同業者が廃業することとなった。

この苦しい状況が10数年続いたが、自社の腕の良い職人たちの仕事は、国内の得意先に非常に高く評価されており、苦しいながらも事業を継続することができた。

そんな中、新型ウイルスの流行により、海外とのやりとりの遅延や制限、海外工場の一時閉鎖などにより、再び国内に縫製の仕事を依頼する会社が増えた。しかし、すでに多くの同業者は廃業し、残っている縫製工場に大量の仕事が詰め込まれるという状況に陥った。

その大量の仕事は、工場のキャパシティを遥かに超えたもので、自社も連日、残業に次ぐ残業を強いられることとなり、このままでは、私も職人もただただ作業に疲弊し、忙殺され、自社の要である縫製の品質を落としかねないと考え、大量注文をあえて請けずに、事業を少し方向転換する決断をした。

それは、自社が誇る縫製技術を用い、OEMに頼ることなく、自社でブランドを立ち上げ、デザインから縫製、販売までを一丸になって行うことだ。品質の維持や利益率の向上を実現し、なにより、苦楽を共にした職人の労働環境を快適に保つことで、その腕を存分に発揮できる工場になることが、今後の自社の目標である。